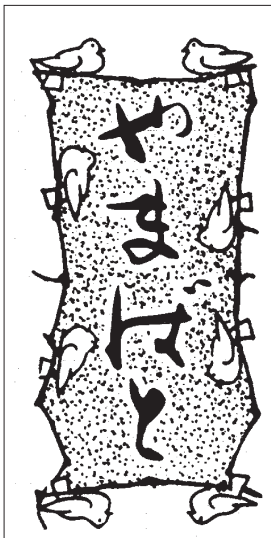
やまばと

昭和55年12月12日第三種郵便物認可
2021年1月1日（毎月1日発行）



発　行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市坂部2151番地2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/
郵便振替　00800－6－14641
頒価年額600円(〒共)1部50円(〒共)
（送料・消費税込み）
寄付金の一部に購読料を含む場合があります。

愛のわざは小さくても

（一）

新しい年を迎えるにあたって、皆様の上に祝福が豊かにありますようお祈り申し上げます。

コロナ禍の到来を全く予期しなかったように、この一年も不測の事態が起きるかもしれませんが、全てのことを益にして下さる神様に信頼して、新しい歩みを始めたいと思います。

牧ノ原やまばと学園が予定している大きな計画としては、「ケアセンターさざんか」（障害の重い人たちのための通所施設）の移転新築と、「デーサービスセンター真菜」（高齢者の通所施設）の移転新築、そして、六月に初めてＥＰＡ生を受入れる、ということがあります。

ＥＰＡは、青魚の成分ではなく、経済連携協定 Economic Partnership Agreement の略語。貿易などいろいろな連携がある中で人事に関する交流・研修を深めることを目的に来日する人たちをＥＰＡ生と呼んでいます。当法人にくる方は、インドネシア人女性（クリスチャン）で、看護師の有資格者です。お互いにとって良い出会いになるよう、

また、介護福祉士等の資格も取得できるよう応援したく思います。

（二）

「ケアセンターさざんか」は、法人最初の通所施設として、一九九七年に開設。当初は定員一五名で、やまばと希望寮に併設する形でスタートしました。やまばと成人寮の活動を終結させた年には、こちらの事情で「さざんか」の人数を急増させたこともありましたが、最終的には定員二〇名として今に至っています。現在使っている元成人寮の建物は老朽化が甚だしく、雨の日には床のあちこちにバケツなどが並ぶ状況です。それでも、元成人寮の広々とした空間は、何にも勝る利点でした。新築予定の建物面積は、今の面積の半分にもならないので、変化に対応して工夫する必要がありそうです。

いずれにしても、現在、私たち関係者にとっての最大の願いは、さざんか建設国庫補助金が得られるようにということです。どうか願いが叶いますように！

一方、「真菜」は、旧聖ルカホームの隣にあった定員三十五名のデイサービス施設です。土砂災害危険区域にあるため、二十年余を経た今、移転新築を決めた次第です。

高齢者施設は、今では建設補助金はありませんので、自己資金と借入金とで建てることになります。

移転に関連して思い出すのは、聖ルカホームに入居していたご婦人のお連れ合いが、毎日のようにバイクでホームを訪れ、聖ルカと真菜の間の斜面に、たくさんの梅の木を植えて下さったことです。

聖ルカの居室からも真菜の側からも、梅の花を見ることができ、情緒豊かな光景に心癒されました。

今では、梅の木は伐採され、オリーブの木がたくさん植えられています。時代の移り変わりとともに、いろいろなことが変化するのを実感しますが、人と人との暖かい交わりはいつまでも続いていきますよう願うことです。

（三）

最近、新聞やテレビで、「SDGs（エスディージーズ）」という言葉をよく見聞きしますが、ご存じでしょうか。これは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略語で、分かり易く言えば、「世界が今以上によくなる

ために、二〇三〇年までに世界の人全員で協力して解決したい目標」だと言えます。二〇一五年九月、国連でのサミットにおいて、世界のリーダーたちが掲げた「国際社会目標」なのですが、日本では当初はそれほど認知されていませんでした。しかし、最近は、企業がこれに積極的な対応を示し、テレビなどのCMにもしばしば登場するようになりましたので、きっとさらに知られてくることでしょう。

こんな目標が掲げられています。

1 貧困をなくそう／十人に一人が貧困

2 飢餓をゼロに／八億人を飢餓から救う

3 全ての人に健康と福祉を／満たされるべき基本的人権

4 質の高い教育をみんなに／全ての課題解決のために

5 ジェンダー平等を実現しよう／性別による差別だけではない

6 安全な水とトイレを世界中に／年間百八十万人の子どもが死亡

7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに／新規事業のチャンス

8 働きがいも経済成長も／年間失業者数三百四十万人以上！

9 産業と技術革新の基盤をつくろう／強靭なインフラとは？

10 人や国の不平等をなくそう／たった八人が三十六億人分の資産を所有

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任／食糧が余っているのに飢餓？！

13 気候変動に具体的な対策を／危険ラインは2℃

14 海の豊かさを守ろう／プラスチックの量が魚を超える？

15 陸の豊かさを守ろう／年間四万種もの生物が絶滅

16 平和と公正を全ての人に／誰一人取り残さない

17 パートナーシップで目標を達成しよう／世界中が手をつなごう

一見、抽象的な目標に思われますが、さらに具体的な、合計一六九のターゲット（具体目標）で構成されており、取組むべきことが明確に、幅広く示されています。

例えば、「目標5」に関しては、「経済、公共分野の意思決定において、完全かつ効果的に女性が参画し、平等なリーダーシップを発揮できるよう機会を確保する」といった目標も入っていますが、それだけでなく、「開発途上国における早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行の撤廃」なども含まれていて、先進国だけでなく、開発途上国も着手すべき課題があること、もし、お互いに目標達成のために努力しなければ、問題は深刻化し、明るい未来は来ないことを知らされる内容になっています。

（四）

「SDGs」は、二〇三〇年までに、これらの世界の課題を解決しようと宣言していますが、日本には、団塊の世代の人たちが後期高齢者（七十五才）に達する「二〇二五年問題」や、その子どもたちの団塊ジュニアが六十五歳に達する「二〇四〇年問題」も控えています。

たぶん別々の問題ではなく、国内の問題解決に努めることが、世界の問題解決にもつながり、その逆の流れもあることなのでしょう。

一番大切なのは、誰かに任せるのではなく、わたしたちも身近なところで、取り残される人がないよう、自分たちにできることをしていくことだろうと思います。

牧ノ原やまばと学園の影の創設者、メイ・マクラクラン宣教師は、ボランティア活動もなかった時代に、農繁期託児所を開設しました。

また、今回、外部原稿を書いてくださった森田フサヨ先生は、生きづらさを抱えた幾人もの子どもたちを自宅に預かってお世話し、元気に暮らせるよう助けられました。実の娘さんは、「我が家は、いつも知らないお兄ちゃんがいたが、それが当たり前のように思っていた」と語っていますが、そのような対応が、暗くなっていた人の心を励まし、元気に生きる力を与えるのでしょう。

私たちも身近なところで、自分にできる支援の手を差し伸べ、お互いが励まされ、喜びあえる関係を築いていきたいと思います。

〈理事長〉長沢道子

ひとりぼっちにならないように

森田　フサヨ

出会い

戦争中、東京から集団疎開で男女の児童と二名の先生が来られた。地域の青年女子三名が様々な手助けに入る。私は女性の活動を見て教師になる夢を強くした。

父は長姉が大学一年で他界したので女の子は進学させないという。

誰にもやれば出来る力があると思い、益々教師になる夢が強くなった。通信教育等で資格をとる事が出来ると知り、挑戦。夢を叶えることができた。

転勤

九校で学ばせて戴いた。

最初の勤務校は静岡市の山の中。当時は材木を運ぶトラックか、商店の車に乗せてもらわないと、静岡市街には出られなかった。食糧品も二ヶ月に一回位市内迄買いに出なければならない。冷蔵庫がないため、安全で長持ちする重量のない物を求めるのが常だった。

山の人達はお互いに助け合って「不自由を常と思えば不足なし」で各々がそれとなく生活していた。

やれば出来る可能性を求めて

私は専門的に何一つ学んではいない為、赴任した学校の先生方や地域の人々と交流を持ちながら学習するように努めた。どんな事を、何時、誰がするのかといった事も赴任二年目に知った。初めての山間地で自由自在に出歩けなかったが、今思えばもっと自由に歩き、学んでおけばよかったと思う。

一昨年は最初赴任した学校関係者が一同に集まり同級会を行なった。当初は静岡で行う予定だったが、六年担当の先生の体調が悪く、静岡まで出られないので、全員がバスで浜松まで行くことに。すると、静岡と浜松の途中にある我が家にもバスが到着し、送迎してくれた。六十八年振りに逢う人は、歌手になった人、写真家になった人、左官の棟梁になった人等、皆さん大変な活動をしておられ喜び合った。

後日、五人ずつ二組の人達が訪ねて来られ今昔の生活について沢山話され再会を誓って別れた。

・持ち物の確認

小学校一年生を迎えて、自分だけで出来るようになる迄は、保護者の力も借りなければと思い協力していただいた。

筆入れ箱の中には、何がどれだけ入っているか、各家庭で確認、下校時は児童自身が確かめる。

紛失物、忘れ物が殆んどなくなり、生活の一助となった。

・連絡帳

保護者と自由に連絡をとる。児童も自由に読む。話したい事があれば自由に書く。常に心を開くよう継続した。

・日記を書く

月日と天候は出来るだけ記録する。絵と文だけでなく、見つけた草花を貼るとか、つかまえた物の名前と絵を描く等、何でも記録しようと勧めたところ、子どもたちはエッと驚いたが、今も書き続けている人もいる。

・一人登下校

特別支援学級を担当した時は、バス利用する子に対しては、礼儀作法、時間厳守、乗車場所を守ることを教え、教師と父母の連絡を密にした。「出来た」と自信が着く迄は親と協力して見守った。

徒歩登校の場合も一人歩きが出来るように訓練した。左右前後の確認、雨天日のカッパ傘の始末など。

・登校拒否

富士市で勤めていた時、榛原から一人の中学男子が母親と富士の私宅に来られた。私の家から近くの学校に通いたいと言う。面識のない親子である。眼鏡をかけていたが、両目のことで引け目を感じていたようだ。私宅には、保育園の次女、六年生の長女がいたが、話を聞いて預かることにした。私宅憲法を話す。身体を壊す事があっては大変なので、与えたおやつ以外口にしない約束を厳守させる。三年間特別な問題もなく通学した。

・社会生活への一歩

特別支援学級を終えた生徒は、訓練学習をして社会へ出るが、受け入れ先では、小学四年位迄の読み書き計算、整理整頓、衣服の着脱始末、入浴、外掃除拭き掃除が出来る事が条件だという。二名を二泊三日で訓練し入学させた。

・勉強をしたい

中学卒業後直ぐ働きに出た若者が、「高校へ行きたい」と、相談にきた。家計の事も考えると定時制がよいということになり、高校の入学許可を戴いた。退社時刻から夜学開始時刻まで一時間半ある。三回だけは私の家で過ごした後、夜学に行くことになった。今は礼儀正しい大人になり働いている。

様々な事の中で一人ぼっちにならないように声かけの機会があるなら挨拶だけでもいいと思う。

みんなでできることをしたいものです。

私たちの仕事は…

デイサービスセンター すずらん　米山千穂

デイサービスは在宅生活が継続できるよう支援する場となっています。施設の計画書を作成しそれをもとにしてサービスの提供をしていきます。

利用者様のニーズは「話し相手がほしい」「入浴をしたい」とさまざまですが、最近では、「運動をしてほしい」というニーズが増えています。

体をうごかすことは気持ちいいと知っていながらも、動かすことにおっくうになっている人には、いつのまにか運動しているようなものを工夫します。

家事活動の中にも体を動かすヒントが隠されています。例えば、食事の前後はテーブルを拭きます。テーブルが大きいため立たないと届かない場所もあります。役割をもらったご利用者は快く引き受けてくれるので、自分の居るテーブルだけでなく広い範囲を拭いてくれます。立座りの運動や体を伸ばす体操がこの動作に入っています。洗濯ものを運ぶときにも職員が「私だけじゃ運べないので手伝ってください」とお願いすると、かごを一緒にもって運ぶ手伝いをしてくれます。乾燥機室は施設の隅にあり、すずらんからの距離は100m以上あるため歩行運動になります。少しの運動ですが、その積み重ねが大切です。

運動をするという行為は、若い人よりも高齢になるほど難しくはなります。ただ難しく考えずにできることは何かを考えて計画を作っています。そうすることで、その人に少しでも寄り添えたらと願っています。

運動や計画を考えるのは私たちの仕事かもしれませんが、「小さなことからコツコツと」大きい夢をかなえるため、できることをみつけ、実践していくことが、私たちの本当の仕事だと思います。

（主任介護員 兼 相談員）

オリーブの実を摘む手伝い

レタスクラブ　藤原信子

三年ほど前に本部より声をかけて頂き、オリーブの実を摘んだり木の根元の草むしりなどを手伝わさせて頂いています。

最初は、「オリーブオイルを手作りでつくってみたらどうですか？」とアドバイスを頂き、レタスクラブの皆で大きなゴミ袋4袋分くらいを用意し、摘んだ実をそこに入れました。

レタスに持ち帰り、皆でワクワクしながら手で揉んで大変な作業をして、ようやく、何とコップ一杯分のオイルができあがりました。

苦労の末、できあがったオリーブオイルコップ一杯分を見て、大笑いしたものでした。

今思えば、貴重な、仲間との苦労の思い出だなぁと、ほのぼのと振り返っています。

去年、今年と、わたしたちは、草むしりと実摘みの手伝いをしました。草むしりは月に1～2回、実摘みは今年は2回です。

実摘みの時、他の事業所の方たちや、オリーブ園の管理者、加藤さんご夫婦に会いました。他の事業所さんは、こう言っては失礼ですが、パワフル全開のおばちゃんたちが多く、そのおしゃべりを聞きながら楽しく摘ませて頂きました。

「なんでも楽しく笑い話にしなきゃダメだよ。笑ってればいいんだよ！」と豪快に笑うおばちゃんの言葉を聞きながら、畑作業と自然と人とが融合しているワンシーンに自分たちが〝いる〟という不思議な感覚を覚えました。

帰りぎわに加藤さんご夫婦が、「これ持って行きな」と言ってたくさんのねぎを下さいました。うっかり時間に流されて忘れがちな、大切なものを味わったひとときでした。

（支援員）

コロナ禍での山梨日帰り旅行

ワークセンターやまばと　田澤岳大

十月九日にワークセンターやまばとで毎年恒例の旅行を実施しました。今回は、コロナ禍での旅行という事もあり、「一泊」は止めて、日帰り旅行に変更しました。コロナが世間を騒がしている中での旅行の実施は、ご利用者様・ご家族様・職員にとって良いものなのかどうかは悩む所でしたが、それでも皆様が毎年楽しみにしている旅行なので、出来るだけ満足して頂けるように職員会議や旅行会社とも話し合い、以下の条件を決め、決行しました。①旅行先やバス車内での密を避ける。②食事場所でのソーシャルディスタンスを保つ。③出来るだけ静かな旅行を目指す。

①については、自立しているご利用者が多いため、二人掛けに一人座るなど工夫しました。また、例年バス車内でカラオケを実施してきましたが、今回はビンゴゲームやDVD鑑賞をし、静かに車内で楽しみました。②は、一般客と一緒にならない様に個室を用意して頂き、座る場所も隣と離れて食事を摂る様にしました。③はご利用者自身コロナを意識してか、静かに旅行を楽しんでいる様に思われました。

旅行に行けると知った時のご利用者の安堵と期待の様子は手に取る様にわかりました。やはり、イベント等が出来なくなったストレスは、モチベーションの低下につながっていると感じました。

しかし、コロナによる規制がある中でも、工夫次第で出来る事が増えていくことも実感したので、今後も楽しいイベントを考えていきたいと思います。

（主任サービス管理責任者）

福祉車両無償貸与について

聖ルカホーム　大石幸

先日（十月十九日）、牧之原市より福祉車両の無償貸与を受けました。市役所前で、杉本市長様から長澤理事長への引き渡しセレモニーも行われました。今年の春ごろ、牧之原市と中部電力株式会社様よりお話をいただき実現したことですが、他の貸与物件と今回のこの車両の大きな違いとしてはこんなことがあります。原子力災害が発生し住民避難等に福祉車両が必要になった場合は、中部電力株式会社様の要請に基づき返還しなければいけないということです。

平時には、社会福祉を目的とした事業に活用してよいことになっています。

車両選定についても、施設主導で選ぶことが出来ました。車いすが二台乗車でき、かつ、健常者の方でも乗降しやすく、乗り心地のよい仕様の物を選定することができました。

聖ルカホームには、すでに四台の車両が配備されているのですが、福祉車両は二台です。これからも入居者様の外出や受診、ショートステイ事業での送迎等のため福祉車両を使うことになります。

貸与を受けてから約二か月が過ぎました。今後、本来の目的である原子力災害時の避難車両として使用される事がないよう願わずにはいられません。また、今は新型コロナウイルス等の感染が心配されていますので外出の機会はありませんが、受診や送迎などに大活躍しています。この車両がご利用者を乗せ、安心してお花見やショッピングに出かけられる日々が一日も早くやってくることを願っています。

（施設長）

歩みのあと

（11月1日～11月30日）

●全体的なこと（）は実施日

▼施設、特に入所施設ではコロナ感染予防のため気を遣う日々が続いています。外来者が「居室へ入ることは禁止」です。

▼インフルエンザの予防接種開始。

▼コミュニケーション研修（伊藤巧理事）

▼主任等研修・第五回目（講師はホッとスペース中原代表・佐々木炎氏）。Zoomにより、四～五会場で、月二回、開催。

▼事故・ヒヤリハット委員会（19）

▼強度六の地震想定の全体防災訓練（27）

●個別のニュース

〈法人〉長沢理事長が、介護保険策定委員会（19）と障碍者自立支援全体会へ（20）

《垂穂寮》記録の書き方研修、防災Web研修、新型コロナ感染・派遣職員Web研修等々、様々の研修を多くの職員が受講。

《みぎわ》防災訓欄（8）、おやつ作り（14）

《野ばら》9月より入院中の人1名、新しい利用者1名。早く回復しますように。

《三施設合同会議》（27）今後の連携など。

《やまばと希望寮》圏域重症心身障碍児者部会を初め会議が多く、後見制度研修など、研修も多かった。／東海短大生2名の研修が、感染拡大地域在住者と濃厚接触していたため、研修は12月初めに延期。

《もくれん》さんまバーベキュー（1&14）

《わかば》利用者が変わったが、平安な日々。

《さざんか》恒例のハロウィン。好みの衣装を着て豪華なおやつに満面の笑顔。（6）

《カサブランカ》二人のご利用者のケア会議。／事務員交代のための引継ぎ実習

〈希望の家・ふれあい〉蒸気機関車の見学会へ（18）／保護者会様による天王山公園草刈り作業／楽しいぽっちゃ大会（20）

《コスモス》新しい事務員が決まり安堵／　大井川鐵道（株）様より、「蒸気機関車の見学と写真撮影」のご招待を受け、ご利用者六名と職員1名で参加。普段は見ることが出来ない工場内を見学。（18）

〈なのはな〉ご利用者の支援会議（2名、別々に2回）／体重測定（25）

《あさがお》青野先生のリフレッシュ体操教室、ご利用者たちが元気に参加。。

《WCやまばと》オリーブの実をとった後、勝間田公園までハイキング（6）／飯田様より花の苗を、牧之原市よりチューリップの球根を頂き、みんなで植えました。

《さくら》吉田町身体障碍者福祉会の皆さまが見学に来訪（17）

〈マーガレット〉施設長の増田今日子さん、予期せぬ長期入院へ。回復を祈っています。河本敦子施設長が、施設長代行。／おやつ作りやクラブ活動や昼食作り

《レタスクラブ》オリーブの実摘み（6）、海岸清掃（13）、湯日川ゴミ拾い（19）

〈生活支援センターやまばと〉島田市役所で、榛南・榛北相談員の集い（3）

〈聖ルカホーム〉県老施協中部支部防災伝達訓練（11）、日赤奉仕団様など、ボランティアの皆様には外作業をお願い。

《グレイス》入所検討会（11）、矢崎（株）の皆さまによる草刈り等の奉仕活動。

《相寿園》聖書のお話（3）、輪投げ大会（13）、　笑いヨガや、習字クラブなど。

《ぎんもくせい》白石宏奈さん就職（1）、　県老施協中部支部防災伝達訓練（11）、非常用発電機修理やエアコン工事等。

《真菜》オリーブの実摘み（6.7）室内喫茶・延寿開催（16）、絵手紙（11）など。

〈すずらん〉さつま芋スイーツづくり（18）

〈さふらん〉オンライン研修「自立支援のための見守り的援助」を学ぶ。

〈シャローム〉新人ケアマネ育成の日々。

《オリーブ》看護協会より訪問看護実習生受入れ（10）、多職種地域連絡会など。

（ぶどうの木）介護予防のため、外出レクやミニ運動会、公園散歩、買物など。

ボランティア活動

★活動者名（敬称略、順不同）

個人　大石勝子、新井美恵子、笠原定子、殿村、内藤きせ、大川原富美子。

団体　どんぐり（布切断・お話）、日赤奉仕団（奉仕）、吉田町身体障害者福祉会、星いきいき財団、矢崎部品人材開発部（草刈り・ぼろ切り・清拭縫い）、垂穂寮保護者会。

あとがき

☆表紙の写真はデイサービスセンターすずらんのご利用者。敬老会にご家族にお贈りした写真です。ご家族だけでなく、皆さんを幸せにする笑顔です。

☆森田フサヨ様は、牧之原市（旧榛原町）のご出身。当法人の評議員をしていただいたこともあります。小学校の先生をしておられた頃の思い出を綴っていただきました。

☆今年は例年にない静かな年始となりそうです。感染症対策でも正念場となるでしょう。新年もよろしくお願い致します。〈I〉

寄付金状況報告

（単位：円）

	寄付金	指定寄付金	誌　代	合　計
4月～10月	4,424,253	0	743,895	5,168,148
11月	1,007,350	0	180,482	1,187,832
計	5,431,603	0	924,377	6,355,980